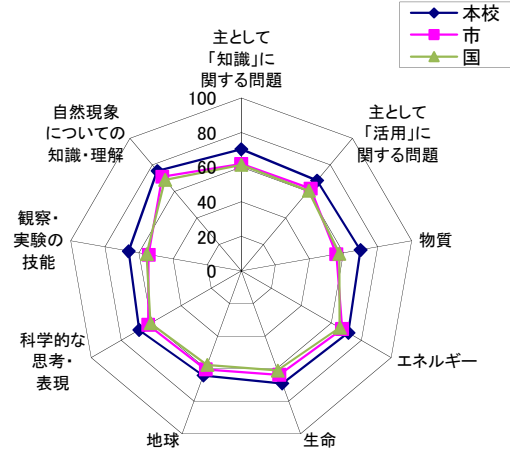


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	70.3	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	68.1	62.2	60.5
区分等	物質	69.9	55.7	57.4
	エネルギー	71.4	67.2	65.6
	生命	69.1	63.8	61.2
	地球	64.2	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	68.1	62.2	60.5
	観察・実験の技能	66.1	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	75.5	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」に対する肯定的回答率が86.3%で、全国平均の75.3%を大きく上回っており、実験や観察の進め方が児童に定着していることが分かる。
●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的回答率が54.2%で、全国平均と比較すると15ポイント、県平均との比較では20ポイント下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○平均正答率は69.9%で、全国平均より12.5ポイント高い。 ○温められた水の性質を基に、水温が高くなる順番を選ぶ設問の正答率は72.6%で、全国平均より18.6ポイント高い。 ○水をはかり取るための、メスシリンダーの適切な扱い方を選ぶ設問の正答率は78.9%で、全国平均より27.2ポイント高い。 ●砂糖水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだ理由を書く設問では、全国平均よりも10ポイント高いが、正答率38.9%と課題がある。	・実験の際には、児童の予想を結果と照らし合わせ考察させることで、指示道を立てて説明する力を育てる。 ・確かめたいことに迫る実験・観察方法を考える時間を設定することで、効果的な比較実験の力を育てる。
エネルギー	○平均正答率は71.4%で、全国平均より5.8ポイント高い。 ○電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ設問の正答率は83.2%で、全国平均より10.5ポイント高い。 ●電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ設問では、全国平均よりも2.6ポイント高いが、正答率55.8%と課題がある。	・電磁石と磁石の同極が退け合う性質を実験等、体験的な活動を取り入れながら復習し、その仕組みに対する理解が定着するよう、繰り返し指導していく。
生命	○平均正答率は69.1%で、全国平均より7.9ポイント高い。 ○顕微鏡各部の名称を書く設問の正答率は73.7%で、全国平均より12.1ポイント高い。 ●顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ設問では、全国平均よりも3.2ポイント高いが、正答率41.1%と課題がある。	・顕微鏡の名称を確認するとともに、操作する機会を多く設けて、適切な操作方法を身につけさせていく。 ・顕微鏡の操作方法が確認できる問題を解く機会を設ける。
地球	○平均正答率は64.2%で、全国平均より6.4ポイント高い。 ●方位についての情報から、観察している方位を選ぶ設問では、全国平均より12.7ポイント高いが、正答率は53.7%と課題がある。 ●夕方にみられる月の形と場所を選ぶ設問の正答率は57.9%で県平均を0.1ポイント下回り課題がある。	・月の位置と見え方について、教科書でまとめ復習する。 観察学習では、観察をする体験を積み重ねることで、結果を整理する力、結果から考察する力を育てる。 ・太陽と月の位置と月の見え方の関係について、様々な資料を提示するなどして児童が捉え理解できるように支援する。